

資料 13

カウントダウンに関する聴き取り書

「明石海峡世紀越えイベント」についての聴き取り記録

I 警備員

日 時 : 平成 13 年 10 月 11 日 (木)
場 所 : 電話にて
被聴取者 : (株)ニシカン大阪支社 支社長代理 Y
聴 取 者 : 明石市民夏まつり事故調査委員会 調査班

(聴き取り内容)

1. 「明石海峡世紀越えイベント」(以下「カウントダウン」という)の当日の混雑状況について

カウントダウンの当日の警備に従事していた。第 1 警備区で歩道橋上を担当していた 23 時頃から急に人波が高まり、混雑してきた。混雑密度は 7 (人/m²)くらいには達していたと思う。この状態では、花火終了後の帰りの群衆が歩道橋へ押し寄せると大変危険になる、と考えた。また、責任者の N 氏からも無線で同様の連絡があったと思う。

そこで、花火が始まる前に打ち合わせた結果、花火終了と同時に歩道橋北側の階段付近(JR 朝霧駅側)にて会場への流入規制を行なうこととし、そのように規制を実施した。

それでも流入しようとする来場者に何度も突き飛ばされたり、体当たりをされたり、胸倉を捉まれたりしながら、「会場は混雑しているので、歩道橋への進入は待って下さい」、また朝霧駅へ向おうとする人には「朝霧駅は混雑しています、大蔵谷駅へお回りください」との広報を繰り返した。この間にも N 氏からは「Y、止めてくれ!」との無線が入っていた。

流入規制は警備員 5 人で行なった。歩道橋手前に機動隊員が 1 名居たことを記憶しているが、立っているだけで、協力はしてくれなかった。こうして、混雑が緩和するまで、おそらく午前 1 時近くまで現場で対応したと思う。

II 観客

日 時 : 平成 13 年 10 月 23 日 (火) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分
場 所 : (被聴取者の自宅)
被聴取者 : M 氏
聴 取 者 : 明石市民夏まつり事故調査委員会 調査班

(聴き取り内容)

JR 垂水から JR 朝霧駅まで電車で一人(途中同行の妻が急用を思い出したので)で来た。

23 時 40 分ころ JR 朝霧駅着。歩道橋は 2、3 分で通過した。そのときの混み具合は初詣ぐらい。乳母車は 1 台しか見なかった。

エレベーターで下りて西のほうの石垣で花火を見、途中で歩道橋階段の北側を上がり踊り場の東側で人の肩越しに最後の花火を見た。その頃は、まだ 8 ミリビデオカメラを動かせた。

歩道橋の東側が海側へ、西側が駅側への流れがなんとなくできていたが、最後の花火の後には全体で海側への流れになった。真中に位置していたため(シェルター南端部を基準に南側 1 m 中央部 次図参照)、横にいた小学生に手すりの方に逃げるように言ったが、その余裕もなかった(真中にいたのはシェルターが頼りなく思え破裂するのではないかと考え動かなかった)。杖を突いていたが苦情があつて足の間に挟んだ。ビデオカメラは肩の上に置いた。

圧迫が続いて息苦しくなったため、胸ポケットにある高血圧の薬を取ろうとしたが、手は動かなかった。ちょっと波みたいなうねりが南北方向にゆっくりとあつた。圧迫は全周囲に感じた。前の人の頭が顎に食い込んでいて倒れたらえらいことになると思つた。

圧迫は 10～20 分間続いたように思う。同じ位置で圧迫を受けつづけた。「帰れ、来るな」といいつづけた。

圧力がなくなって帰りの歩道橋を通るとき、散乱したモール、靴等を目撃した。歩道橋北側の階段の手前で 5、6 名の機動隊員が盾付き(全員ではない)で配置していた。杖を突いて歩いていたので注意して通るようにとの心遣いを頂いてありがたく、頼もしく感じた。

朝霧駅で一息ついて電車に乗った。JR 垂水駅でもう一息ついて(一電車をやりすごした)、臨時の山陽電鉄に乗り換え月見山駅で降りて自宅に帰った。帰宅時間は午前 1 時 30 分～2 時の間だつたと思う。

事故調査委員会に寄せられたM氏の葉書全文

前略 花火の件以降委員の皆様方のお務めに感謝申し上げます。私、一介の一市民です。少々遅きに失しましたが一言申し上げます。

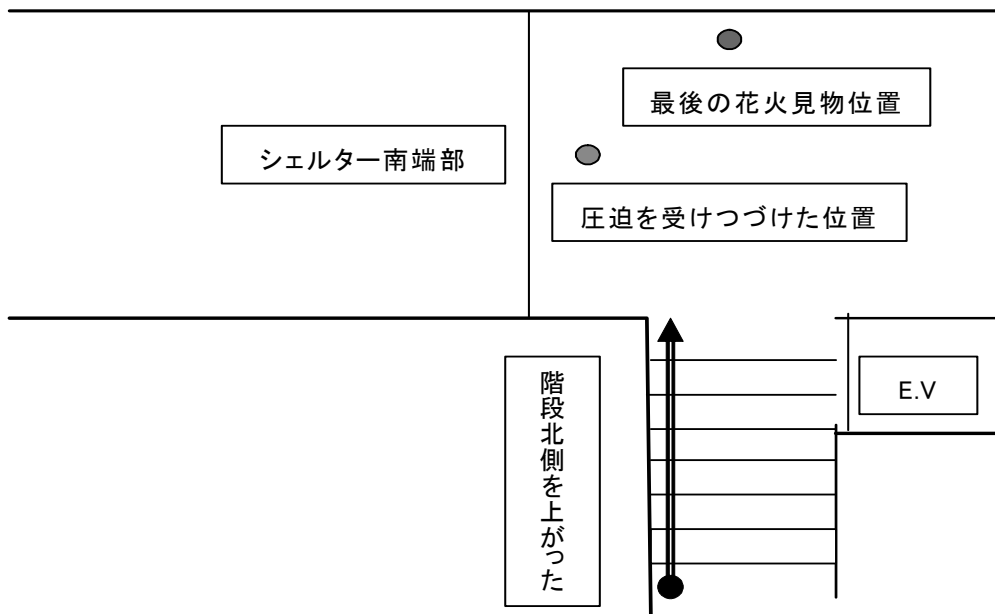
実は私は本年の花火の件には無関係ですが昨年のカウントダウンのイベントでまさに九死に一生を得た経験をいたしました。あの角でのひしめく光景は当事者でないと分からないと存じます。

TVで報道された1㎡に13人どころではありませんでした大げさかもしれませんが15人以上の息の止まりそうな混みようでした。子供を連れた保護者の「押さないでくれ。子供がここにいるんだ。」と叫ぶ絶叫はいまも強く記憶しております。

私もカメラをどこへ動かしても（身体のまわり）あのカメラで私自身の骨が折れそうになり遂に頭の上へ乗せてしまいました。胸に置けばあばら骨が、腹に置くと胃腸がつぶれる（カメラで）と思いました。

私も大声で右側に同じ状況で立っている赤いネオン棒を上にあげた警備の人に（一人居りました。）「北から入ってくる人たちを止めてくれっ」と何度叫んだか分かりません。ガードマンはその時「電池が切れている」とか全く何のための警備かと心底腹が立ちました。

今思い返しますのに「何故にあの時北から入ってくる人たちを遮断しなかったのか」「何故」と思いますが幸い死傷者が出ずに北側の駅のほうへ出られました（混雑は20分ぐらいだったと思います）。あの時ガラ空きの広場を見て絶句いたしました。場所の構造をお調べください。カウントダウンの反省が何故になされていなかったのかと悔やまれてなりません。



Ⅲ 主催者

日 時 : 平成 13 年 10 月 3 日 (水)
場 所 : (財) 阪神・淡路産業復興推進機構 会議室
被聴取者 : (財) 阪神・淡路産業復興推進機構
聴 取 者 : 明石市民夏まつり事故調査委員会 調査班

(聴き取り内容)

1. 「明石海峡世紀越えイベント」(以下「カウントダウン」という)の当日の混雑状況について

午前零時から光のイベントが始まり、午前零時 10 分頃に終了した。光のイベントが始まるまでは、会場への人の流れは大きな混雑もなく流れていた。光のイベントの約 10 分間、歩道橋の南側部分や階段上の群衆が立ち止まって見る人が急に増えたため、特に歩道橋内南側に人の滞留が激しくなった。さらに光のイベントの終了前後から帰りを急ぐ人波が歩道橋へ向ったため、急激に混雑が高まった。

そのため、あらかじめスタッフの間で打ち合わせをしていた、明石方面への迂回誘導を警備員等が拡声器や肉声で広報した。

後で聞いた話だが、警備員やイベントスタッフ約 10 名程が、階段下で階段への進入を規制していたようだ。

また、一方で、朝霧駅側の警備員が、会場へ向う来場者に対し「花火は終了しました。前へ押さないで下さい。」などと広報して、混雑緩和に努めた。

その結果、人の流れは西へ向いていき、零時 30 分頃に混雑は落ち着いていた。また、零時 30 分過ぎには進入規制を解除したと聞いている。

なお、警察官がこの間の対応に加わっていたかどうかわかりません。

午前 4 時頃に歩道橋を渡った際、歩道橋南側の東西の端部に、手袋、マフラーなどが落ちていた(数量的には確かでないが、10 点程度ではないか)ので、その時「混雑はすごかったんだな。」と思った。

主催者発表の 5 万 5 千人については、23 時時点で、4 万人(警備会社のジャパンメンテナンスが算定した数字)を発表していたため、その後の増加分を見込み、23 時 30 分頃、明石署にも確認をとって最終発表した。

年が明けて 1 月 5 日にお礼の挨拶のため明石署を訪れたが、T 地域官とは「無事終わって良かったですね。」といった話をした。お互いに、大変な状況だったが、事故もなく終わって良かった、という感じだったと思う。

2. カウントダウンの準備段階での警察との協議について

10月16日、12月1日に交通・観客輸送幹事会(JR、山陽電鉄、県警本部・明石署、垂水署、岩屋署、警備会社、実行委員会で構成)を開催(10月16日に警察は出席していない)、11月8日に県警本部、3署、警備会社を含め警備計画検討会も行った。これら以外に8月30日の事前説明を皮切りに、12月8日、22日、25日、31日に警察との打合せ・現地踏査(警備会社も同行)を行っている。

警察からの指導への対処としては、(1)警備員の配置については、遊撃隊での対応とし、特に増員はしていない。(2)警備の資機材(交通看板を含む)の配置位置、数量の確保については、可能な限り対処した。それ以外には特記するようなことは特に無いが、主催者側の出席予定者に、当時内閣顧問の堺屋太一氏などがあるなど、警察側は要人警護にも重点を置いていたようだった。

警備計画書は、ジャパンメンテナンスのS氏が作成した。N氏が下請けの警備責任者として参画したのは、ジャパンメンテナンスの幹部が、N氏の過去の大蔵海岸でのイベント経験も含め、N氏が適任だと判断したからだと思う。

なお、イベント終了後にカウントダウンの関係者による反省会は行っていない

3. カウントダウンの準備段階での明石市等との協議について

明石市には色々と協力してもらった。平成12年5月8日に事務局と“明石千年祭”実行委員会との打合せ(市からは、企画調整部長、商工観光課長、観光係長、担当者らが出席)を行った際、平成11年12月31日から翌1月1日にかけての千年祭(主催者発表2万人)の経験を基に、「大蔵海岸は2万5千人がMaxだと思う。大変な部分があった。警備も大変だった。」と明石原人の会代表が発言していた。神戸新聞事業社の担当者も「大変だった。」と言っていたが、その具体的な内容までは話題にならなかった。

12年5～12月にかけて数回にわたり大蔵海岸で、明石市商工観光課長、海岸治水課主幹らと現地立会をしているが、5月頃の現地立会の際、同行していた兵庫FMの方(震災以降、神戸ハーバーランドにて毎年末にカウントダウンイベントに携わっている人物)が、「階段が危ない、ネックやな。(混んだら)フェンスを越えて線路を渡る(駅へ行くため)人がいるかもしれない。」と話していたことが記憶にある。

この他、地元自治会への説明や関係部署への許認可手続きなどについても明石市には多くの協力をいただき感謝している。